

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ

自分らしさを大切にしながら

通信教育部福祉心理学科卒業生
通信制大学院福祉心理学専攻1年

米谷 和美

はじめに

『With』をご覧になられている皆さま、はじめまして。現在、通信制大学院福祉心理学専攻1年の米谷和美と申します。先月、スクーリングの際に、通信教育部の職員の方から原稿をお願いできませんかとご依頼をいただき、その時はあまり深く考えずにお引き受けいたしました。帰宅後、果たして私の体験談やアドバイスが誰かのお役に立てるのだろうかと思直不安になりましたが、自分のことをそのまま書くことが一番良いのではないかと思い、微力ながらご協力させていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

福祉心理学科での学び

思い返せば4年前、福祉心理学科3年次に編入し、約2年間かけてスクーリング受講やレポート作成に励みました。入学が4月を過ぎてからと遅かったこともあり、実際勉強を開始したのは6月くらいからだったような記憶です。他の4月入学の方々に比べると、ゆっくりめのスタートなのかなと思います。このようなこともあり、初めての会場スクーリングは「心理学実験Ⅰ」だったのですが、すでに顔見知りとなってグループで親しげに会話をしている方々の様子を教室の片隅から眺めながら、勝手に心細い気持ちや焦る気持ちを感じていたことをなつかしく思い出します。よく、友達を見つけてお互いに励ましあってということも聞きますが、それに対して否定する気持ちは少しもありませんが、無理をする必要もまった

くないと私は思います。このように、スクーリングについてはオンデマンドで視聴できる科目は自宅で、それ以外は会場というようにし、自分にとってやりやすい方法で消化していきました。レポートについては、きっちりとした計画を立ててしまうと、出来なそう！と思った瞬間から追いつめられそうな気がして、ざっくりとしたものを頭の隅に置きながら、仕事が休みの日で書けそうなときに一気に書くことが多かったような気がします。どうしても時間をかけることができないときはあまり完璧をめざさず、これくらいでいいかなという状態でも提出していました。

卒業研究と大学院への進学

入学して3年目に、これまで自分が仕事やプライベートで考えてきた様々なことを、少しきちんとした形にまとめてみたいという気持ちから、卒業研究に取りかかりました。当初は1年計画でしたが、ちょうどその頃、突然自分の趣味である大好きな楽器のレッスンの機会が得られ、考えた末に両方を選択することにし、結局2年かけて論文を仕上げました。自分自身の変化が研究の方にも何か影響をもたらすかもしれないという思いが密かにあったのですが、悪くなかったのではと思います。

肝心の研究の方ですが、本当に、過ぎてみれば不思議と忘れてしまうものですが、確かに苦しいものでした。出産は未経験なのですが、出来上がった論文は自分の子どものようなものかもしれません。これは東北福祉大学の学生の方の話ではないのですが、知人が「論文を一つ書き上げると自分が変わる」とおっしゃっているのを聞いたことがあるのですが、まさにそんな感じだと思います。そんな中でも完成することができたのは、自分の考えを大切にしないで（おそらく）と温かく励ましてくださった先生の存在に尽きますが、誰かの役に立つものを書きたいという気持ちが一方にあったことも大きいのではないかと思います。

このような貴重な経験をさせていただき、もう少し学びたいという気持ちから今年の春から通信制大学院への進学を決めました。つい先日もスクーリングで仙台を訪れましたが、自分にとって大切な時間になっていることをしみじみ感じます。

仕事のことやその他思うこと

学部在学中はNPO法人の職員としてサポートステーションでの勤務、その後福祉の事業所、小学校と転職いたしましたが、今は福祉に限らずどの現場でも大変なことが多いのではないかと想像します。一方でこのことについては逆に置き去りにされているような、目に見えて分かりやすいものや、コストがかからないものにどんどん追いつめられているような、余裕のなさを感じてしまいます。自分が大事だと思うものを見失わないように、そのための力を自分につけてたくて東北福祉大学での学びを開始したのですが、現実の仕事となると、なかなかすんなりとはいかないようです。ということで、まだ学びの途中であります。

それでも東北福祉大学は、先生方、職員の方々の親しみやすさのようなものを感じます。かつて若い頃、東京の大学に通っていましたが、その当時と比べてこの違いはなんだろうと考えたときに、これが東北の人の持つあたたかさなのかなと思ったりしています。

学びたいという気持ちを大切に、自分を信じて進まれることを。私もやらないと！ですね。